



旧街道の面影と山水画のような風景を楽しむ

## 松阪市

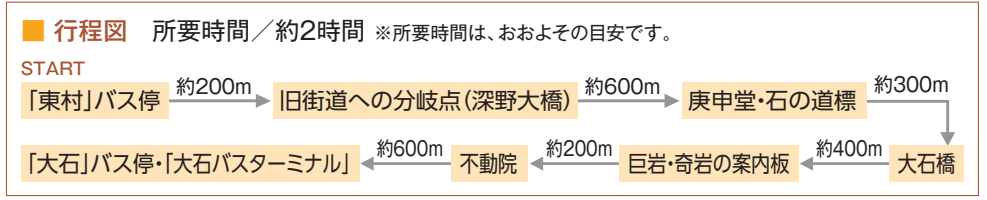
# 大石町周辺

松阪市大石町は、紀州と松坂（松阪）を結ぶ和歌山街道と、奈良と伊勢を結ぶ伊勢本街道の重なり合う場所として古くから栄え、江戸時代には紀州藩が本陣を置くなど宿場町としての整備をしたといわれます。また、この地域はその名の通り、巨大な岩石が榊田川の中や川沿いのあちらこちらに存在感を示しています。今回は、松阪市大石公民館の館長を務める桑山 秀治さんにご案内をお願いしました。前半は宿場町の面影を辿りながら旧街道をたどり、後半では榊田川に沿って、川と巨岩と山々が描く山水画のような景色を楽しみながら歩きます。後半の中頃には、1200年以上の歴史を持つ大石不動院やムカデランの群生地などがあり、見どころの多いコースです。

取材・文：堀口 裕世



今回ご案内いただいた松阪市大石公民館の館長を務める桑山 秀治さん。歴史に詳しく、地元愛あふれる館長さんです。



## 宿場町の風情の残る旧街道へ

国道166号は大石町付近では、榊田川に沿って右に左に大きくカーブを描きます。古の和歌山街道・伊勢本街道は、この166号を縫うように交差し、時には重なりながら続いています。

今回のコースは、166号にある「東村」バス停からスタート。まずは上流方向に進みます。青い深野大橋の手前に、左に分岐する道がありますので、これを曲がって、下流方向へ。この道は旧



美しい石垣が点在する



庚申堂のある石垣



行悦道標

街道で、その昔は旅籠などが並んでいたということ。この付近には、丸い石を積み上げた石垣があちこちに見られます。山から川へ向かう急な傾斜地のため、崩れを防ぐ必要から生まれたものですが、この街道沿いのほか、山側上がった柵田などにも美しい石垣があり、独特な景観を生んでいます。

しばらく歩くと、庚申堂のある石垣があります。手前の石垣の中には、大きく四角い石が一つはめ込まれています。



石の道標

これは石の道標で、「大石宿 はせより是迄十五里」「是より宮川へ七里」と彫られています。この石垣の上には庚申堂や「行悦道標」があり、厳しい旅の無事を祈った昔の人々の思いをしのべます。

さらに進むと、道はまた166号と交わり、信号のある「大石」交差点に出ます。ここを渡って坂を上り、さらに旧街道を進むと、矢下川やしろがわにかかる大石橋の手前に四つ角があります。この辺りが昔の大石宿の中心地。この付近に、かつて本陣や30頭も馬がいたという伝馬所などがありました。また、旅人に藩の決まりなどを告げる高札や、灯りをもとして旅の安全を守る常夜燈などもあったそうです。現在、常夜燈は後に立ち寄る不動院にあり、高札は、今回のコースには入っていませんが、ここから300メートルほどの地点にある蓮浄寺に保管されており、あらかじめお願いしておけば見学可能とのことです。



矢下川に架かる大石橋

ここから弧を描くように続く旧街道を進み、おせん坂と呼ばれる坂を下りると、また166号に出合います。

### 山水画のような風景を

横断歩道で道を渡って町並みをはじめ、166号の川側の歩道を進みます。対岸の緑と澄んで滔々と流れる水と、あちらこちらにそびえる巨大な岩とが描く、山水画のような風景を眺めながら歩けば、気分は爽快です。

川が大きく左にカーブしていく途中に、歩道が川に張り出した部分があり、ここからの景色は絶品。赤岩・白岩・猫岩・浮岩など、岩の名前などを記した案内板が設置されていますので、ゆっくり見比べてください。



岩の名前が書かれた案内板



上流方向の眺め



カーブの中頃に不動院が見える

### 1200年の歴史を持つ古刹へ

このカーブの頂点付近に、不動院があります。ここは、弘仁3(812)年に開かれた真言宗のお寺で、修験道の修行場であったと伝わっています。「夫婦の滝」(不動滝)や慶長7(1602)年に建立された本堂、享保7(1722)



「夫婦の滝」

年に建てられた鐘楼の他、本堂脇の石段の上には天保4(1833)年に寄進された太子堂などがあり、さらに坂道を上れば、榎田川や近隣の集落などの風景が見渡せる展望台もあります。

この不動院の横に、巨岩群の横綱とでもいふべき高さ33メートルの「ほうろく岩」があり、昔、焙烙(素焼きの土鍋)を背負った商人が、この岩が落ちてくるのではないかと不安のあまり荷を落とし、焙烙が割れてしまったという話が伝わっているそうです。また、この岩は、ムカデランの群生地として国の天然記念物

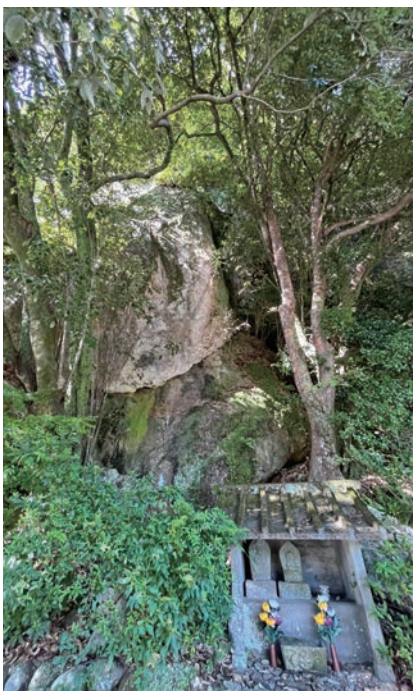
に指定されており、脇には石に刻んだ馬頭観音も祀られています。再び川に沿って進み、波多瀬橋の前を過ぎると、ゆるやかなカーブの向こうにゴールの「大石」バス停・「大石」バスターミナルが見えます。ここは昭和39(1964)年まで、松阪駅と大石を結んでいた松電(松阪軽便鉄道)の終着駅跡。時代を追って交通手段が変遷しているのを実感しながらのゴールです。

※バスは本数が限られていますのでご注意ください。

問 松阪市役所 大石地区市民センター  
TEL 0598-3410004



不動院の本堂



「ほうろく岩」と馬頭観音のほこら



駅舎の面影を残す「大石」バスターミナル